

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900526		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館 霞ヶ浦		
所在地	茨城県かすみがうら市宍倉5200-38		
自己評価作成日	2021年10月6日	評価結果市町村受理日	2022年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0873900526-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	2021年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「毎日を明るく、そして元気に！」 全体の中には100歳以上と高齢な利用者様が入居されていますが、毎日楽しく生活していただいております。 「やることある。居場所がある。頼りにされる」 一人一人がそんな存在になっていけるような環境作りに努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人と事業所独自の理念にそって、利用者一人一人に合わせたケアの提供に務め、利用者が日々楽しく過ごせるよう取り組んでいる。敷地内には公園や花壇があり、散歩や日光浴で太陽の日差しを浴び、風に触れて、季節の移ろいを感じている。利用者自身が他の利用者や職員から頼りにされることは生き甲斐となっている。感染予防対策マニュアルを作成し、ゾーニングの方法・必要物品の整備・シミュレーションを実施している。コロナ感染予防対策として食事は個別にとっていたが、状況が少し好転してきたことから一緒に食卓を囲み、人気の少ない場所への外出、100歳のお祝いイベントを行うなど、利用者・職員ともに久々の当たり前の生活に喜びを感じ、お互いの距離感が一層近くなった。*新型コロナウイルス感染予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼において基本理念を唱和することで全スタッフが理念の意味を理解し、実践へ反映させています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念・目標を作成し、実践に繋げている。朝・夕礼時に法人の基本理念を唱和し、確認・共有している。職員は利用者が心穏やかに過ごしてもらえるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス対策として外部との接触を控えているので日常的に交流は図れていない	現在はコロナ感染予防対策として外部との交流は行っていない。地域住民から野菜の提供をうけることがある。介護・福祉に関する相談を受けた時はアドバイスをを行い、関係機関に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議の場を活かし、認知症の疾患を抱えている利用者様の日常生活やその知識について情報の共有と理解を深めています。また、認知症以外の事(流行り病等)に関しても知識を共有している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウイルスの為、地域運営推進会議は資料の配布のみ行っている。	コロナ禍で、感染対策の為、書面報告となっている。内容は利用状況・事業予定・報告・事故・ヒヤリハットとなっている。報告書提出前に委員からの意見は聞いていないが、報告書は送付している。家族には必要に応じて報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	特別な時以外にも日頃からの様子など報告している。また、しでやっている取り組みなどの情報も提供してくれている。	担当課とは連絡を密にとり、相互に情報提供を行って良好な関係を築いている。介護相談員の来訪があり、報告を受けてサービス向上に活かしていたが、現在はコロナ禍で中止となっている。子供110番は検討したいとの事。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し3か月に1度会議を行い、身体拘束に対する理解を全スタッフで深めている。	身体拘束マニュアル・指針を作成し、拘束となる行為・弊害は周知している。委員会を設置して3ヶ月毎に会議を開催し、事例で話し合いを行い、自己点検シートで確認もしている。6ヶ月毎の研修会後は確認テストを実施し、意識の向上に努めている。一時的に拘束となる場合の書類は整備している。玄関は施錠していないが、センサーで人の出入りが把握できるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	WEB研修にて虐待や、身体拘束などに関して学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に各種研修に参加することで知識を得るように努めています。また、現在制度を利用されている方もおり支援させていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には必ず利用者様やご家族様に説明を行い、ご理解、ご納得していただいております。また、契約事項改定の際には3か月前までに書面にて通知し理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所入口に「ご意見箱」を設置しご家族様の意見や要望を受け付けしやすい環境を作っている。また、お電話や面会に来られた際にスタッフの方に直接要望を伝えてくださるので頂いた意見には迅速に応えるようにつとめています。	意見の言い出しにくい利用者・家族に配慮し、意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明示している。2ヶ月毎に利用者の様子を書いた手紙と写真を同封して郵送し、家族からお礼の手紙が来る時もある。現在面会は予約制(15分)で実施している。油物が多い等の食事に関する意見があり、話し合いの場を設け、煮魚や野菜を提供することにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のカンファレンスにて意見や要望等、直接伺えるようにしている。	運営に関して、新採用の職員や利用開始の利用者について事前に報告している。月1回のカンファレンス・現場での気づき・要望等はその都度検討し改善している。管理者は職員の離職・ストレス・不満に耳を傾け、職員がやりがいを感じ、向上心を持てるように努めている。職員はディレクターや管理者に信頼を置き、楽しい職場環境でストレスや不満はないと答えてくれた。月1回のWEB研修・内外部研修(受講費支給)でレベルアップに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃からスタッフの勤務状況などを上司に報告し把握できている。また、年に1回給料の見直しを行いスタッフのやりがいや向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回WEB研修を行い知識と技術の向上に努めています。また、法人外の研修も申請すれば費用は会社負担にて受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所内の別の施設にヘルプに行くことができ、その際に同業者との交流や知識の共有を行い、自館に戻った際に他のスタッフにもそこで学んだことをフィードバックしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時に利用者様の生活歴や不安に思っていることをしっかり確認し、全スタッフで共有することで安心できる環境を提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのようなことで悩んでいるか等入居前の面接時に伺い、個々に合わせたサービス内容の方向性を一緒に考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前の情報からスタッフやケアマネジャーを交えて話し合いを行い、必要になりうる支援や介護用品などを検討し迅速に対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご本人様ができることを行っていたいただき(家事のお手伝いなど)役割を持っていたりすることでやりがい、生きがいに感じていただけるような対応を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外部での受診などは基本的にご家族様に協力していただいている。また、施設側だけでは困難な事案があった場合は、ご家族様と一緒に考え対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様から要望があれば馴染みの人たちと連絡が取れるようにしています。現在も居室にて生活していた時の隣人の方が必要な物品を届けてくださったりしている方もいる。	要望があれば、手紙や年賀状、電話で馴染みの人との関係継続に努めている。テレビ電話や窓越し面会をしていたが、家族の面会は10月から再開している。コロナ禍で面会は少ないが、隣人が必要物品を届けてくれる。利用者が孤立することなく、利用者同士の馴染みの関係を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の自席やレクの時などのグループ分けにも配慮し一人一人が孤立せず利用者様同士の関わりを保てるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、今後も困ったときには連絡していただけるようにお話しさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には利用者様と面談を行い、日々の生活での希望や要望を伺うことで本人様の意向の把握に努めています。	日々の会話から利用者の思いを聞き、全職員で共有している。生活歴・職歴から利用者の希望・意向を把握し、趣味(裁縫・クッキー・サラダ作り・読書等)や家事(洗濯干し・たたみ・掃除・花の手入れ・水やり等)でやりがいに繋げている。業務を優先することなく、利用者のペースに合わせた生活リズムとなっているが、せっかちの利用者が多く、遅くなったときは、催促されることもあるという。困難な場合は利用者の表情・様子から気持ちを察して本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴や、今までの生活環境を伺い、できる限り以前と変わらない生活を送っていただけるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の日々の言動や様子、状態などを記録に記載し、朝礼、夕礼時に報告し情報の共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様との面談を行いケアマネや居室担当スタッフ、役職者等にてアセスメント、モニタリングを行い、毎月のカンファレンスにて話し合った上で作成しています。	利用者・家族(面会時)から意見を聞き、カンファレンスでニーズとケアのあり方について話し合い、現状に即したプランを作成している。毎月のカンファレンスと6ヶ月毎のモニタリングから評価に繋げている。プラン作成後は家族に説明し同意を得ている。タブレットを活用するケア記録ソフトに記入し、更に重要事項は朝夕礼の申し送りで確認し全職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をとり、全スタッフにて情報の共有ができています。問題があることなどに関してはカンファレンスで議題にあげ皆で意見を出し解決できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望に合わせて個別レクを計画し実行しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をあまり活用できていない。利用者様の幅広いニーズにこたえられるようまずは資源の把握をするよう努めます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院に関しては本人様、ご家族様の要望に合わせており、うちの協力機関以外に受診されている方もいます。	月2回、精神科・外科・内科の往診があり、体調管理に努めている。眼科・歯科の往診もある。かかりつけ医・突発時の受診は職員もしくは家族が付き添い、情報をタブレット内の受診記録に残している。医療的ケアが必要になった場合は協力医療機関に相談できる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的なケアが必要になった場合は、協力医療機関に相談し適切なケアができるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	近隣の救急対応病院との連携は図れている。入院された場合は定期的にお電話にて状況確認し、退院時は協力医療機関に情報を提供できるよう協力いただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に施設での対応可能範囲やそうでない範囲の説明を行い理解していただいております。また、本人様やご家族様、医療機関とのし方向性を一緒に考えています。	契約時には医療連携体制、及び重度化・看取りに関する事項、同意について説明している。事業所としては原則看取りは行わない方向で、重篤前に医師から家族に説明があり、次の医療機関に繋げている。今のところ家族からの要望やクレームは無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフには救命救急講習、事業所に接地されたAEDの取り扱い方法について定期的に指導、研修を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、また災害対策マニュアルを作成し緊急時の対応や避難所などを周知し冷静な対応を取れるよう準備徹底している。	年2回の防災訓練を実施し、職員は昼夜を問わず利用者が安全に避難できる方法を身につけている。備蓄品・緊急持ち出し用品は定期的にチェックを行っている。以前、台風で停電になった時は招集をかける前に全職員が集まってくれた。前回の評価で次のステップにあがった地域住民との合同訓練はコロナ禍でまだ実施できていない。福祉避難場所については確認中。トラック火災・通電火災については理解している。	風水害・地震・火事に対するマニュアルは整備しているが、保管されている場所が職員に周知されていない。特に夜間帯の不安解消となるよう、マニュアル保管場所の周知と、コロナ収束後は地域住民と合同訓練・協力依頼を行うことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性を把握し、対応を統一した方がよい場合などもあるのでスタッフ間で連携し対応を一貫している。	利用者の人格を尊重し、言葉かけやケア提供時に失礼が無いよう、全職員で気を付けている。外部に向けた情報開示については家族に説明し、同意を得て個人情報保護に努めている。同意を得た利用者のみ玄関ホールに写真と名前を掲示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り様々な選択肢を与え、自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の都合で優先できないこともあるが優先できることに関しては柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で選んで着替えを行ったりどんな服を着たいか希望を伺い対応しています。また、個別レクにて服を買いに行ったり、2か月に1度訪問理容サービスを取り入れおしゃれができる環境を整えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあったメニュー作り、利用者様の好みを伺いながら作成しています。	利用者の希望を取り入れ、季節の食材を使った献立を職員がたてている。誕生日会・イベント食・テイクアウト・手作りおやつ(クッキー)等で食べる楽しみにつなげている。担当職員が食事介助を行い、他の利用者の食欲や嚥下に注意を払っている。利用者の状況に合わせた形態で提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、個々にあった形態で提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しています。必要に応じて定期的に歯科往診をうけ口腔ケアの方法などについても指導を受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の個々の排出パターンを把握することで一人一人に合ったタイミングにてトイレ誘導を行い、トイレで排出する習慣づけや自立に向けた支援に努めています。	自発的な利用者には見守り支援で、他の利用者は排泄パターンを把握し、表情や様子からタイミングを見極め、声掛け誘導を行いトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘予防として食事・飲み物・運動等で工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として食事や飲み物を工夫し適度な運動を取り入れています。どうしても排便が見られない時は医療機関と連携しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には利用者様の入浴したい日、時間などの希望に沿いながら対応しています。	基本週3回の入浴支援ではあるが、希望に応じた対応を実施している。毎日朝一番に入浴する利用者がいる。皮膚感染予防対策として個人毎に足ふきマットを交換している。しょうぶ湯・ゆず湯・入浴剤でリフレッシュしてもらっている。着替えは職員と相談しながら準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換を週に1回行い、常に清潔な環境で休息できるよう心掛けている。また体調不良時や、自席にて眠られている時はお声掛けしお昼寝できるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の確認を行い、用途の理解に努めています。また、服薬後の経過観察も行い何か異変があった際には、主治医、薬剤師にすぐに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、嗜好、能力を把握し一人一人に合ったお手伝いやレクを提案し実施し役割を持っていただくことで生活にメリハリが出るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス対策として積極的に外に出れていないが人が少ない公園などをリサーチしてお弁当をもってピクニックなど行っている。	以前は様々な場所に出かけていたが、現在はコロナ禍で人とあまり接触しない公園等を探して、出かけている。お弁当持参し、利用者のピクニック感覚で楽しそうに食事をしている写真があった。普段は事業所の中庭を散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を管理ができるかどうかしっかり把握し可能と判断した場合は所持できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用の際には、本人様に気兼ねなく利用できるように配慮しています。手紙なども特に制限はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや行事の写真などの掲示をしている。また室温なども管理し利用者様が過ごしやすい環境を整えています。	こまめに換気を行い、コロナ感染予防に努めている。季節の飾り物や、ハロウィン・100歳の誕生日会等イベントの写真を掲示し、見当識への配慮が見られた。利用者がマッサージ機やソファでのんびり過ごす姿があるという。リビングは動線を確保し、利用者が動きやすく、職員が台所仕事をしていても、利用者の様子を見渡せるようになっている。見やすい大きな手作りの日替わりカレンダーや時計が飾ってある。3食の献立も記入され、利用者の食べる楽しみに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にマッサージ機やソファを設置し一人でもゆっくりできる環境がある。またテレビ前にテーブルを設置し気の合う方と一緒にテレビを見ながらお話しできる環境もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に家具などはご家族様やご本人様に用意して頂くので使い慣れた物を使用して頂けている。	居室ドアに名前を明示し、混乱防止に努めている。なじみのテーブル・イス・仏壇・衣装ケース(クローゼット内に収容)・テレビ等を設置している。テレビやラジオを聞きながら休んでいる利用者の姿があった。家族の写真・ラジカセ・手作り品等を飾り、利用者にとって一歩踏み入れれば落ち着く雰囲気のある居室となっている。掃除は職員と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は車いすや歩行器が通りやすいように広めにレイアウトしています。全面バリアフリーは勿論、手すりの設置を行い安全面の確保に努めています。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム いっしん館 霞ヶ浦

目標達成計画

作成年月日 : 2022年1月16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害関連のマニュアルは整備してあるが、保管場所を周知していないスタッフがいた。また、前回課題にもなった避難訓練の際の地域住民の参加の声掛けもコロナ渦の為、実践できていない。	全スタッフ、マニュアルの保管場所を周知する。コロナが収束、または、落ち着いたタイミングで避難訓練の際に地域住民に参加の声掛けをする。	・各種マニュアルをスタッフルームにすべて保管する。 ・避難訓練時に地域住民にも声掛けし参加者を募る。	3ヶ月 ※避難訓練に関してはコロナ収束後。
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。